

福井県の公共交通機関の利便性向上に関する提言書

私たち高校生は、福井県の公共交通機関をより便利にしていくことができると考えている。現在、北陸新幹線が敦賀まで延伸したことにより、観光客の増加に比例して福井県の二次交通の利用客も増加傾向にある。そのため、普段利用している公共交通機関に対して、大雪による影響や経済面、外国人からの意見など、あらゆる観点からさらなる利便性の向上について考えた。これに加え、私たちが公共交通機関に改善を求める、高齢者運転士の問題や外国人運転士の採用といった点、顧客満足度を向上させるための新しい取り組みについても考えた。それらのことについて、以下の通り提言する。

1 大雪等の災害による運休対策について

大雪等の災害の影響で公共交通機関が運休し、様々な不具合が生じる場合があるため、無料バスの運行やSNSなどを用いた情報発信・活用の改善に努めること。

2 ハピラインふくいの利便性向上について

現在、ハピラインふくいは、JR貨物から貨物線路使用料が支払われている。しかし、JR貨物から支払われている貨物線路使用料だけでは、ハピラインふくいの赤字経営が続いてしまうため、JR貨物に対して貨物線路使用料を今より多く請求することを検討すること。

3 敦賀駅での利便性向上について

現在の敦賀駅において、東口と西口の出口を間違える人が多い。これに対して敦賀市は、ICカードを利用した人のみ改札を無料で行き来できるようにしてほしいと主張している。しかし、JR西日本は、システム改修にかかる費用と実際の費用が釣り合わないことを主張していることから、県がシステム改修に補助金を出すことを検討すること。

4 公共交通機関の人手不足対策について

近年の福井鉄道では、運転手の勤続年数は長く平均年齢は高いが、新規採用者数が少ない。こうした人手不足の対策として外国人運転士、従業員の雇用を検討すること。また、福井県が、福井鉄道と京福バスの運転士の人手不足対策として、バスの運転士を紹介した方に5万円を支給するというキャンペーンを行っている。この紹介キャンペーンについて、高齢者世代だけでなく、若者世代も応募しやすい広報に注力するとともに、運転士の魅力を広く普及啓発すること。

令和6年8月9日

福井県知事 杉本達治 様

足羽高等学校 チーム「まこ」
西村 瞬
吉池 唯真
小林 矢真斗